

# 第16回名張市市民活動支援センター運営委員会事項書

日時：平成22年3月5日（金）午後7時

場所：名張市市民情報交流センター

1. 宇治市における地域SNSについて

2. その他

## 第16回名張市市民活動支援センター運営委員会会議録

日時 平成22年3月5日(金) 19時00分から21時00分

場所 名張市市民情報交流センター会議室

出席者

(委員) 石見教彰、梶原重信、福永英世、宮川忠彦、吉井正男

(市) 企画財政部 地域経営室 室長：奥村 副室長：荻田 垣中 末次 神原  
宇治市における地域SNSについて(パソコンにより説明)

<委員からの意見>

- ・地域SNSのシステムができていぶん経つのに成功事例が少ない。その原因を調べるなど、先例をうまく活用(失敗から学ぶ)しなければいいものでもまったく活用されることがないのでデメリットにしかない。  
活用していくためには、情報格差(参加できない人)をどのようにフォローしていくのかも重要になってくる。例えば新聞(機関紙)等の発行などを検討する必要があると思う。  
また地域SNS内で政治・宗教等のコミュニティをつくることはできないなど最低限のルールは必要だと思う。社会が悪くなるようなコミュニティは必要ない。
- ・地域SNSはその地域に住んでいなくても参加できるので、地域外の人に名張のよさや特性を知ってもらえるきっかけになる。また、将来的には伊賀市と名張市で広域SNSを進めるのも可能である。
- ・既存のホームページの活用度など今ある課題も解決する必要がある。
- ・人と人をつなぐのはやはりアナログであるので、ネット上だけではなく顔の見える付き合いへ発展させていくきっかけづくりが重要である。  
地域SNSは、若い人には受け入れてもらえるツールになると思うので、そこから若い団体と既存の団体がつながっていくように発展すればいいと思う。  
また、今の市民活動の環境は、高齢者向き(平日昼間・日曜)なので若い人に参加してもらうような工夫も必要である。
- ・市民活動支援センターは、印刷やコピーをする場所ではなく、行けば誰か(他の団体の人)がいる場所、何か情報がある場所にしなければいけない。センターについても「知らない人」や「知っていても行ったことがない人」がたくさんいる。もっと分析して利用者を広げる工夫が必要である。